

# ものづくり de 教育

Vol.12 Nov.2009

## Topics

シンポジウム報告  
ホームカミングデーより  
Keyword「身体言語」  
受験生応援特集 Q&A

## 第 57 回小金井祭が開催されました

2009年10月31日～11月3日に東京学芸大学の学園祭「小金井祭」が行われた。この期間、目抜き通りには屋台が並び、各所で研究室やサークル、有志の団体のイベントが盛りだくさん。そのにぎやかなお祭りの中、実は学びのイベントも毎年いろいろと催されている。図書館の展示や講義棟での展示も興味深かったが、今回は「ものづくり」に関連していた催しを紹介する。



▲ 芸術館で開かれたシンポジウムの様子。手前の木は、戸澤先生の話の話題の一つだったツリーハウス模型。

今年のホームカミングデーの企画の一つとして「ものづくりの ころを子どもたちに」というシンポジウムが10月31日(土)に開催されました。田中喜美先生が司会を務め、戸澤忠蔵先生(株式会社ヒノキ工芸代表取締役、キャンパスアドベンチャー・スクール校長)、須藤敏昭先生(大東文化大学前学長、同教授)、鉄矢悦朗先生(東京学芸大学ものづくり教育選修担当教員)がパネリストとして参加しました。それぞれ立場の異なる3人の先生方の視点から見た「ものづくり」が話の軸となり、これまでの活動の紹介やものづくりを通じた人づくりのあり方などを聞くことができました。戸澤先生は「楽しいものには人が集まる」と考え、職人の立場から技術をきっかけに世界へ挑戦してきた経験、可能性を。須藤先生は昔といまの子どもたちの視点の差を認識しながら、あそびとは何か?を研究し、「子どもの遊びと手の労働研究会」を運営してきた経験などを。鉄矢先生はこれからはじまる「ものづくり教育選修」へのアプローチと抱負を話しました。大学OBの他、学生、教員、高校生など多数来場し、参加者みんなで興味深い話に耳を傾ける時間となりました。

### \*ホームカミングデーとは?

大学のOBOGや教職員など大学関係者が母校に集う日。欧米の高校や大学を中心に広がったイベント。学芸大では毎年シンポジウムやコンサートを開く。

その他にも、学びの催しは学内各地で開かれ、技術科では「みんなで作ろうおもしろ技術教室」という来場者の親子に技術科の学生が工作を教えたり、実験を見せてみんなで楽しむ教室が開かれ、連日大盛況でした。美術科では現職教員の先生の話や「美術教育フォーラム」と研究室ごとの制作を発表する「美術科展」が開かれ、現職の卒業生や在校生が入り交じって学ぶ貴重な場ができました。

来年からはじまる「ものづくり教育選修」では、どんな催しが開かれるのか、いまから待ち遠しいですね。(新名)



▲ 技術教室の様子。未就学児もお母さんと一緒に作る。

ものづくり  
教育  
Key  
word

## 身体言語

【名】よみ：しんたいげんご

No.011

大意：言葉だけではなくその人の行動や動向も含め、周囲に対して影響を及ぼす為のメディア。

身体メディアと呼んでも良い。

- ①コミュニケーションは言葉という記号情報だけやり取りしているように思えるが、特に人が生身で直接向き合う時には、相手の背景も含め体全体でやり取りをしている。
- ②情報を入力するという事で考えると、現在はIT機器を初めとする多種多様な方法が豊富に存在するし、今後とも新しくなっていこう。しかし、相手が人である以上、もっとも単純で直接的な身体言語がますます際立ち、もたらす影響や共鳴は大きい。
- ③この身体言語を駆使し生身でのやり取りが行なわれる場には競技場や劇場も含められるが、当然その中には学校も入る。そして、其れを駆使する先生は身体表現者と呼べるだろう。(石井)

